1　栃木県の地域性

栃木県は二条大麦に関して全国 1、2 位を争う大麦の産地であります。
主にビール麦としてビール会社に引き渡されますが、ビール規格外としての二条大麦も相当に販売されております。

2　当社（大麦工房ロア）と大麦の係り

1984 年　洋菓子専門店を開業　（店舗名：四季のお菓子ロア）
1997 年　大麦ダクワーズを発売
2008 年　通信販売を主とした（大麦工房ロア）に社名変更
以後、菓子・食品など大麦加工食品として多くの商品を開発、販売する。

3　大麦ダクワーズの誕生を支えたひとりの農家とひとりの精麦屋

当時、大麦は一般流通しておらず、地元の大麦を入手することが困難でした。
長谷川農場と勅使川原精麦所との出逢いが大麦ダクワーズの誕生を支えました。

4　地域密着としてのイベント開催　　（麦秋ウォーキング）

麦の穂が黄熟してくる５月下旬頃、全国から希望者を募って行います。麦畑散策や大麦を使ったランチを召し上がっていただくほか、畑ではつめたく冷やしたトマトやきゅうりなどの地元のとれたて野菜も振舞われます。また午後には、おおむぎ健康講座や大麦の穂を使ったフラワーアレンジメントのワークショップなど学びや体験型の内容盛りだくさんのイベントです。今年で 17 回目を迎え、ますます盛り上がりを見せています。

5　ビューファイバーの取組み

2010 年	農研機構の指導下で試験的な導入	200kg/10a
2011 年	発芽障害が起き登熟のままの収穫となる	120kg/10a
2012 年	５月収穫直前の大雨でほぼ全滅となる	0kg/10a
2013 年	中山間地域の農場支援を行う	160kg/10a
2014 年	雑種混入があり収穫後の乾燥作業が遅くなった	180kg/10a
2015 年	第一回ビューファイバー現地見学会を行う	Ａ200kg/10a Ｂ360kg/10a
2016 年	栃木県産業技術センターと商品の共同開発を開始	Ａ210kg/10a Ｂ330kg/10a
2017 年	ＪＡ足利とビューファイバーの契約を締結	Ａ180kg/10a Ｂ420kg/10a
2018 年	ＪＡ足利ビール麦部会の協力で生産農家が６件に拡大 自社栽培の開始	平均 290kg/10a
2019 年	さらに生産農家が増え８件に　　自社栽培も好調	平均 290kg/10a

6　農業法人　株式会社大麦工房アグリ設立

2017 年 6 月当社は、原料の大麦を自社栽培するため農業法人株式会社大麦工房アグリを立ち上げました。

きっかけとなったのは、足利市内に多く発生している耕作放棄地の存在でした。農家の高齢化と担い手不足から、手入れのされない農地が市内のいたる所に 43ｈａあり問題となっていました。そんな折群馬県太田市から足利市を流れる一級河川の矢場川沿いに約 3ｈａの耕作放棄地があり困っていると地区代表の農業委員から相談を受けました。以前より、大麦の自社栽培を行いたいと思っていたため農業法人の立ち上げとなりました。

13 件の地権者様との契約もまとまり圃場整備が始まりました。永い所では約 30 年近く手付かずの状態で 5m以上の大木もあり整地には苦労しましたが翌年 2018 年の 11 月にはビューファイバーの種まきができ、今年 2 度目の収穫を行いました。現在も面積、収穫量ともに拡大しています。

大麦工房アグリビューファイバー栽培面積・出荷実績

年度	面積	出荷量
2018 年	244 a	6304.9ｋｇ
2019 年	323 a	11765.7ｋｇ
2020 年	352 a	

7　栃木の大麦食品を広める会の発足

2012 年、大麦生産の日本一二を争う栃木県の身近な大麦と健康の維持・向上に有用な大麦を利用・活用した食品を開発し広めることにより、新たな需要創出、産業活性化、農業の発展、自給率の向上を目指すことを目的とした栃木の大麦食品を広める会を発足させました。地元栃木県内の企業、生産者など約 50 社が会員となって会を盛り上げます。今年も 10 月に宇都宮市内にて大麦についての講演会と試食会を開催し約 400 名のお客様をご招待し大麦の普及に努めています。